

Profile  
No.2

# 公認会計士ほど

## 楽しい仕事はない

### 吉田恵美

### 吉田 恵美

よしだ めぐみ

公認会計士  
 平成12年 株式会社公文教育研究会  
 (現社名:株式会社日本公文教育研究会)入社  
 平成16年 公認会計士試験合格  
 有限責任あずさ監査法人入所  
 平成25年 吉田恵美公認会計士事務所所長(～現在に至る)  
 平成27年 株式会社ハシラス監査役(～現在に至る)  
 平成28年 日本公認会計士協会 千葉会幹事・  
 広報委員会委員(～現在に至る)  
 千葉市市民局指定管理者選定評価委員会  
 常任委員(～現在に至る)

#### 吉田先生が公認会計士を目指されたきっかけを教えてください

子供のころから数学が大好きで、将来は好きな数学を生かした仕事に就きたいと考えていました。大学は数学科の進学を考えていたのですが、授業内容を調べてみると数学科でも理科系科目の割合が多く、自分がやりたいこととはどこか違うなと感じました。そこで、数字を使った学問ができるのではないかと商学部に進路希望を変更しました。大学入学してすぐの6月に、簿記3級に百点合格し、簿記のおもしろさに目覚めたのですが、一方で、公認会計士試験はハードルが高すぎるものと考えていました。それというのも、当時は合格者数が700人前後で、目指したものの挫折する人も少なくありませんでした。大学在学中に簿記2級まで取得し、厳しい就職活動を経て、教育関係の会社へ総合職として就職しました。ところが、仕事で子供たちと触れ合い、自分の可能性の追求に貪欲な彼らを見ているうちに、自分もまだまだ頑張れるのではないかと考えるようになり、1年で退社し、公認会計士を目指しました。

#### 公認会計士人生の中でのターニングポイントはいつですか

試験合格後、あずさ監査法人に入所しました。監査法人に入所した当初は独立しようとは思っていませんでしたが、8年間ほど勤めたのちに退所し、その後、自分の事務所を構えました。

監査法人では、男女の区別なく仕事ができたと感じています。残業やアサインでも性別を理由に差別を受けたことはありませんでした。ただ、女性の場合、どうしても妊娠出産育児というプライベートな事情が絡んでくると、男女関係なく働けることがマイナスになってしまうことがあるのかもしれませんが、結婚では生活に特に変化はありません。



んでしたが、子供が欲しいと考えるようになったときに、毎日のハードな生活の中ではなかなか子宝には恵まれませんでした。そういった事情もあり、監査法人を退所しました。すると、体調回復もあったのか、幸運なことに子供を授かることができました。しばらくは子供との時間を大切に過ごしていたのですが、徐々に、せっかく公認会計士になったのに、このままじゃもったいないなあと考えるようになりました。そのタイミングで、友人の税理士の方からお誘いがあり、子供を保育園に預けて、税理士事務所でお手伝いを始めました。所長先生の仕事ぶりを見ているうちに、「やはり、士業は自分一人の名前で戦っていける」という気持ちが湧き、結構気軽な気持ちで自分の力で勝負してみようと思い、現在に至ります。

#### 公認会計士という仕事をやっていく中での面白みは何でしょうか

独立して、様々な士業の方と接する機会が増えたのですが、独占業務以外の仕事で独立できてしまうのが公認会計士の面白いところと感じています。それというのも、監査を行う際、会社全体の業務フローを理解することが不可欠であり、あらゆることを見聞きすることができます。時間、量、質のどれをとっても情報量が他の士業を圧倒しています。もちろん、守秘義務があるので、監査法人で得た情報そのものは話せませんが、頭の中には知識や経験がたくさん積まれています。

現在はコンサルティング業務がメインなのですが、先日、お客様とお話をしていて、「会社の業務の改善をしたいと考えたときに、誰に相談したらいいのかいつも悩んでいたのですが、公認会計士さんに相談すればよかったんですね」と言われました。もちろん、独立後も監査業務に携わっている方もいらっしゃいますが、法定監査業務以外でも仕事ができ、お客様に感謝され、社会に貢献できるというのは、公認会計士の面白みと感じています。

また、監査法人退所後、しばらくブランクがあったにも関わらず、自分で事務所を起し、自分の融通を利かせながら楽しく仕事ができ

ているのも、私が公認会計士という資格を持ち、監査法人で専門性の高い経験を積ませてもらったおかげだと思っています。

女性に限らないと思うのですが、自分がやりたいと思っ仕事をずっと続けていく上で、専門性の高さがあるというのは、他人から見た場合、とても分かりやすく差別化ができるのではないかと考えています。この点については、ライフステージの変化で柔軟な働き方が求められる女性には、武器になると思います。

#### 女性にとって公認会計士業界はどうあるべきでしょうか

公認会計士試験に合格して多くの人は、まず監査法人に勤務すると思いますが、監査法人だけが働き方ではないと考えて欲しいと思っています。

私は日本公認会計士協会の女性会計士活躍促進協議会の委員もしているのですが、合格時点では20%ほどの女性がいらっしゃるのに、公認会計士として開業しても数年後に廃業してしまう方が多く、全体では女性比率は15%弱に留まっています。

一般的に、公認会計士を目指す女性はとても真面目で、優秀な方がとても多い印象です。一方で、監査法人で男女の差がなく一生懸命やっているうちに疲れ果ててしまう人も少なくないのかなと思っています。それで、もう公認会計士はいいやってなってしまうのではないかと。そのような方がいるのは、ご本人にとっても、社会全体にとってももったいないですよ。視点を変えればやれることはたくさんあります。家で育児をしながらPCでできる仕事もありますし、地元の企業や地方公共団体等からも公認会計士の力は求められています。私は、女性公認会計士として、頑張りすぎた故に辞めてしまう女性公認会計士を少しでも減らしたいと考えています。

先ほども専門性の高さが武器になるとお話しましたが、子供を産んでママになっても公認会計士は自分の知識や経験を生かすことができる仕事です。仕事への取り組み次第で、バリバリもできるし、ゆるめにすることもできる数少ない職業なのではないかと思っています。

公認会計士業界としては、公認会計士の強みをきちんと理解し、そのような人材を供給できることを内外にもっとアピールできれば、様々な働き方をする女性公認会計士が出てくるのではないのでしょうか。そうすることで、女性公認会計士にとってより魅力ある資格になるのではないかと考えています。

#### 若手へのメッセージ

公認会計士の世界は狭いです。専門学校も限られているので、その時代からの付き合いが合格後、そして仕事をしていく中でもずっと続いていきます。

その狭い世界を存分に活用するためにも、縦と横のつながりは大切にしてください。私自身も会計士補会(現在の準会員会)で財務委員長を務めていました。横はわかりやすいと思いますが、縦のつながりが想像以上強く、初めてお会いする方も、「準会員会をやっていた」と言うと、それでお互いの信頼関係がぐっと強まったりするんですよ。

狭いコミュニティだからこそ、周囲への信頼をきっちり築いておくことが重要であると感じています。ちなみに、今、受験時代の仲間と一緒に仕事もしています。

#### 編集後記

日本公認会計士協会会長に初めて女性が就任するなど、女性会計士が活躍しております。お二人のお話を聞き、女性にとっても男性にとっても可能性の幅が広い資格であり、自分のライフスタイルに合わせた働き方ができる点が公認会計士の魅力だと感じました。また、長いキャリアの中で様々なことに挑戦できるのもこの資格ならではの点ではないでしょうか。私も日々の業務で経験を積み、自らの可能性を広げていきたいと改めて思うきっかけとなりました。

日本公認会計士準会員会  
実践躬行チーム一同